

# ご近所のお医者さん

□  
657  
□

ていこころのクリニック院長 鄭庸勝さん 一東大阪市

## チック・トゥレット症とは？

「チック症」という言葉は聞き慣れているかもしれませんが、「トゥレット症」は聞き慣れないかもしれません。チック症とは「繰り返されるまばたき」「口をゆがめる」などの運動チックと、「せき払い」「鼻をならす」「排泄つや性的な言葉」などの音声チックに大きく

一方、トゥレット症とは、発見者のジル・ド・ラ・トゥレット医師の名前に由来し、多彩な運動チックだけでなく、複数の音声チックが現れます。米国の子どもトゥレット症の有病率は、約100人に1人とされ、それほ

叱責などせずに、静かに見守ってあげることが大事です。

逆に複雑チックの場合は、本人の苦痛の大きさや、周囲からのからかいなどで日常生活に強い影響を及ぼすこともあり、早めの治療的介入が必要になります。治療には、生活指導・精神療法・行動療法・薬物療法などがあります。

## 理解し静かに見守って

かつては親が厳しすぎてチック症になると

く分かれ、それらの動作が素早く、反復的で常同的な運動の場合をさします。日本の子ども5人に1人は、成長過程で何らかのチック症状があると

いわれています。どまれではありません。またチック症は、明らかに無目的で素早く単純な動きや音声の単純チックと、持続がやや長く、意味があるように見える動きや音声の複雑チックに分

けられます。ただし診断をするのは、チック症の頻度の増減があっても1年以上持続している場合です。特に単純チックで日常生活に支障がないのであれば、治療対象とは考えず、症状が出ても注意や

で相談されることをお勧めします。

小学生で発症した後、徐々に改善して思春期のころには軽減・消失に至ることも多く、他の合併症がない限り、悪い予後ではないと考えられます。気になる場合は小児科や児童精神科などで



で相談されることをお勧めします。